



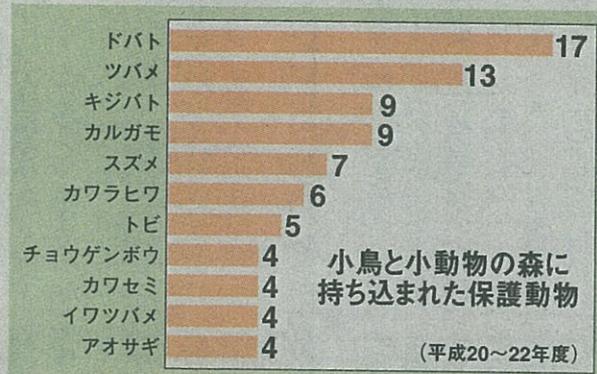
タイムズ調

公園の動物園・小鳥と小動物の森に運び込まれる。多い時で年間100件を超えるが、保護動物はそれぞれ生態が異なり、飼育員は工夫して世話しているようだ。実態を調べてみた。

園で平成20～22年度(23年度は取りまとめ中)に保護された野生動物は152件。最多のドバト(都市部にいるハト、17件)は、公園などでネコや猛禽類に襲われてけがをしたケースが多い。

2位のツバメ(13件)は飛びながら虫を捕る際、人家などにぶ

ハトなどの鳥類目  
異なる生態 苦勞して



類もいるが、ほとんどは地域住民が手を触れやすい鳥類だ。珍しいケースでは、飼育施設から逃げ出し

保護動物を飼育するのは基本的に野生復帰させる方針だが、半分以上は死んでしまう。けがや衰弱が回復しないほか、



1月下旬に松本市内で保護されたハイタカ。左翼を骨折していた

地域住民が野鳥を保護する際、巣立ちの時期は注意が必要だ。飛べないが巣から落ち、けがをしていないのに保護されることがあるが、多くは餌付かず死んでしまう。内田さんは「善意が裏目に出ることも。野生動物が幸せに暮らせるよう、適切な保護をお願いしたい」と呼び掛ける。

(石尾 出)

写真集製作で感謝状

愛知のプラルトに贈るサークル

写真集製作のお礼に贈られた感謝状



印刷出版のプラルト(松本市笹賀、犬飼金男社長)はこのほど、同社で写真集を製作した愛知県春日井市の写真サークルから感謝状を受けた。春日井市は「書きたこと」をうたってお祝い、ちりめんの和紙に著名な書家がつつた味わい深い感謝状に、担当の高山浩一さん

でも高いので、きちんと再現することに気を配った」という。ハイビジョンのきめ細かな印刷で発色も作者の意図を引き出すよう工夫

犬飼社長は「感謝状は、出来に満足していたらいいというよりは、南信が2件で、それ以外は1件ずつだった。」

素朴な疑問をお寄せください

1件(同5000万円)だった。地区別では、南信が2件で、それ以外は1件ずつだった。

犬飼社長は「感謝状は、出来に満足していたらいいというよりは、南信が2件で、それ以外は1件ずつだった。」

犬飼社長は「感謝状は、出来に満足していたらいいというよりは、南信が2件で、それ以外は1件ずつだった。」

犬飼社長は「感謝状は、出来に満足していたらいいというよりは、南信が2件で、それ以外は1件ずつだった。」

FAX 0263・47・1654 メール desk@shimin

期間 平成24年4月26日まで

追加料理のご用意もあります

朝食はサラダとフルーツ食べ放題!!

恒例! 無料 香スラン

4名様~1客利用

少人数で行く ゆとりの旅 贅沢体験

旅行期日 4月11日(水)

旅行代金 お一人様 15.0万円